

- 平成 21 年度運営方針 -

1 運営方針

2つの地震を被災して傷ついた地域の復興を目指し、一年半かけて完成させた「北条地区コミュニティ復興基本計画」を基に、地域が一丸となってその実現に向けて取り組んでまいります。

コミュニティ事業と組織を見直します。

「暖暖」と「つららなすの会」は経営という視点をもってもらうために、自立型の組織体制にします。しかし、採算ベースがとれるまでは全面的なバックアップは必要だと考えますので、専門事業推進室と同列の位置付けを行います。ただ、「暖暖」と「つららなすの会」はこれまでの専門室とは別に、その事業の特別の会計を有するため名称を「特別事業部」とし、これまでの専門事業推進室を「一般事業推進室」に改めます。

上記活動を推進していくために、一般事業推進室の福祉対策室を廃室し、地域環境室の活動はふれあい推進室に踏襲して組織のスリム化を図ることにより、事業内容の精査充実に努めたいと思います。

更なる災害に強いコミュニティづくり

中越沖地震発生後、独立行政法人防災科学研究所は柏崎市と研究協定を締結し、柏崎市のコミュニティの取り組みと地域防災力の関連性（平常時の地域の潜在力が減災に繋がること）を調査研究してきました。今年度は防災科学研究所と共催で防災に役立つプロジェクト（直接的・間接的）を立ち上げ、更なる災害に強いコミュニティづくりを推進してまいります。

併せて、北条地区災害対策本部としての課題整理をして、本部としての役割、地域内外の連携（平時・災害時）の在り方について、運営シナリオをつくるなど本部としての高度化を図ってまいります。

2 活動計画

(1) 会議等実施予定

- ・ コミュニティ委員会（総会） 4 / 27（日）
- ・ 会計監査
- ・ 常任委員会 必要に応じ開催
- ・ 三役会議 必要に応じ開催
- ・ 一般事業推進室会議 必要に応じ開催

(2) 特別事業部

暖暖

暖暖は復興基本計画を具体化するまちづくりの拠点としてリニューアルしました。その大きな役割は下記の3点。これらの具体化に向けて活動を展開します。

- 地域の宝物の展示販売（総菜・特産品・農産物等の販売、名人・達人等の紹介）
- 地域交流サロン（カフェ・地元食材を生かした食堂・弁当宅配・地域の茶の間等）
- ビジターセンター（地域の観光案内・イベント情報・地域のPR等の情報提供）

北条つららなすの会

栽培2年目。特産化・ブランド化に向け、徹底した有機栽培による付加価値の高いなすを生産するため、新潟県特別栽培農産物認証制度とエコファーマー制度の認証を受けます。栽培は場の拡大と品質管理や出荷体制・経営管理等の強化を図りながら、本格栽培に取り組めます。

- 栽培本数 1,200本（うち共同ほ場で700本栽培、前年度800本）・栽培面積 1,441㎡
- 暖暖との連携（生なす・加工品等の販売、なす定食をメニューに）
- なすレシピの開発
- 加工品開発（漬け物・菓子等）

(3) 一般事業推進室

ふれあい推進室

- ・ 地区民親睦体育祭の開催 6月14日（日）
- ・ 祇園柏崎祭り民謡流しへの参加 7月24日（金）
- ・ 民謡流し踊り講習会の開催 2回 7月13日（月）・7月20日（月）
- ・ 地区民親睦バス旅行
- ・ 第30回コミュニティ祭り 10月18日（日）
- ・ スノーフェスタ in 北条 2月7日（日）
- ・ センター一斉清掃 2回 8月4日（土）・12月19日（土）

教育振興室

- ・ 「北条毛利いにしえロード」リーフレット作成
- ・ 「北条毛利いにしえロード」歴史ボランティアガイドの養成
- ・ 「北条毛利いにしえロード」駅からハイキングの開催（JRと共催）9月12日（土）

冊子/JR「駅からハイキング」・JTB「大人の遠足」で紹介

- ・ 暖暖及びつららなすの会出店
- ・ 生涯学習学級（講座）と家庭教育学級（講座）の開催

山なみ編集室

- ・ コミュニティ広報「山なみ」毎月発行（編集・打ち込み・印刷・配布）

安全対策室

独立行政法人防災科学研究所と共催（5年間事業）

- ・ 初動対応マニュアルの作成ワークショップ
- ・ 安全・安心マップ作成ワークショップ
- ・ 学校と地区との連携を図った小学校の避難訓練
- ・ 地域外との交流企画（防災グリーンツーリズム）
- ・ 北条ネットの充実ほか